平成 29 年度　技術部活動報告

技術部会　松 尾 修 二

Ⅰ. 企業視察実施報告

訪問先：株式会社シーヴイテック九州
訪問日：平成 29 年 6 月 14 日（水）

［企業視察概要］

始めに堀越社長から御挨拶があり、会社の概要について説明された。つづけて当校からの人材供給に対して感謝の意を述べられた。次に工場見学担当者よりＣＶＴの仕組み、構造について説明があり独自技術により滑らかでノイズが少ない優れた特徴をシンプルな構造の中に実現されたＣＶＴベルトを製造されている事がわかった。限られた時間ではあったが生産現場を見学することができた。ＣＶＴベルト、エレメント(ＣＶＴベルトを構成している部品)を手にすることができたが、自動車の動力部で長時間高速回転し動力を伝達していること考えると、優れた品質と高い耐久性を実現できてることに感心した。

［卒業生との懇談会］（30 分程度時間を確保していただいた。）

〈会社の良いところは〉

・上司や関連部署に意見を述べやすい社風

・福利厚生が充実している。

〈今の自分に足りない部分〉

・プレゼンテーション能力(キャリア採用の方、前職ではプレゼンテーションの機会がなかったため、ただ今学習中だそうです。)

・計画を策定するにあたっての関係部署、担当者、上司との緊密なコミュニケーションの重要性を感じている。怠らないようにしている。(キャリア採用の方)

・先輩、上司、同僚に対する連絡、コミュニケーションの不足。(新卒、2 年目)

・英語力。研修中に他の同期よりも TOEIC の点数が低かったため。(新卒採用、3 ヶ月)

［視察を終えて感じたこと］

特に卒業生との懇談会がとても有意義であったと思う。彼らとの意見交換を通じて、長崎県の県北に自動車関連企業が進出してきたことは地元で働きたいと考えている当校学生にとっては就職活動における企業の選択肢が増えことになり非常に有り難いことだろうと感じた。また、入社後のキャリア形成の体制も整えられており、当校学生が就職できた際には大いに活躍できる企業であると感じた。堀越社長、人事担当の方々、当校卒業生におかれては、多忙な中にもかかわらず貴重な時間を設けて頂き、かつ我々を快く迎えてくださり我が技術室のスタッフも有意義な機会を得る事ができ、とても感謝している。

Ⅱ．技術室技術研修会

講　師：國﨑宏明技術職員（第 3 技術班）
実施日：平成 29 年 11 月 29 日（水）
テーマ：リスクアセスメント実務研修

平成 29 年 10 月 3 日に開催された中央労働災害防止協会、九州安全衛生サービスセンターが主催する「安全衛生スタッフ向けリスクアセスメント実務研修」に第三技術班の國﨑宏明氏に参加していただいた。その研修報告と、学生の実習・実験・研究活動における安全に対する取り組み、および教職員の職場として安全衛生環境を改善するため、「現実的に実施できる施策から取り組んでいこう」というリスクアセスメント実務の説明があった。

［講演内容］

１．心構え

事業所等でリスクアセスメント等の安全衛生に関する取り組みや対策を実施しようとすると、”お金がない”、”時間がない”といった声が挙がるが、お金や時間をかけなくてもできる事はある。例えば、危険因子を取り除く、防護柵などのプロテクトを用意する、作業者にプロテクターを装着させる、このような現実的で具体的な対策を考えるだけでかなりの危険因子が取り除かれるし、危険に対する意識の向上にも役立つ。また、日頃より安全衛生面における課題を見つけ対策を考える訓練がとても重要である。

２．雇用を守る取り組みである

リスクアセスメントに対する取り組みは、学生を危険から守ることばかりでなく、職員自身の雇用を守る取り組みでもある。そのためには、日頃発生する小さな事故、怪我に関する記録と対策を文書にして残しておくことがとても重要である。面倒なことかもしれないが、ひいてはそれが自分自身の雇用を守ることへつながる。

３．第三技術班の取り組み事例紹介

現在第三技術班では、より具体的で実効性のあるヒヤリハット活動に取り組んでいる。ヒヤリハット報告書の改善と、報告に関するルールや責任の所在等をきちんと定めて実施している。実習工場を利用するすべての人に対し、この活動を踏まえ、工場に入る際の服装の徹底や、工具の整理整頓の重要性を訴え厳格に指導を行っている。第一技術班、第二技術班など、そのほか現場で同様の取り組みを行う場合は、危険因子を取り除くなどのできる事から始め、次第にレベルの高い取り組みへ移行していくことが現実的な方法であろう。

［まとめ］

１．やれることからみんなでやりましょう

２．リスクアセスメントへの取り組みは、職員の雇用を守る

３．事故の内容、対策は必ず文書で残しましょう

４．まずはヒヤリハット活動をやってみませんか

５．年度末にどのような活動をはじめられたか、第一技術班、第二技術班の方にうかがいます